

ちよだアーツスクエア構想の提言

平成18年10月

ちよだアーツスクエア検討会

は　じ　め　に

千代田区では、平成16年3月に策定した「文化芸術基本条例」に基づく文化芸術の施策を、総合的かつ計画的に推進するため、平成17年1月に「千代田区文化芸術プラン」を策定し、文化芸術のエネルギーあふれる魅力あるまちづくりを推進している。

文化芸術プランの実施については、プランに位置づけた施策の基本的な考え方である、「地域性・文化芸術資源の活用」、「区民の感性・主体性・創造性の尊重」及び「住み、働き、学び、集う人々の活動・交流」の3つの視点と区と区民、民間団体などの役割分担を踏まえて重点プロジェクトの具体的な取り組みを行い、目標達成に向けて事業の効果を検証していくとされている。

それを受けて、アーツスクエア検討会では、平成17年度より検討を重ねてきた。その結果、千代田区には、江戸時代から積上げられてきた豊かな文化芸術資源や新たな文化を発信する基盤があることが確認された。その歴史と文化を尊重しつつ、新しい文化を生み出すためのハード及びソフトの両面から、文化芸術の拠点づくりが必要であるとの結論に達した。

ここに、ちよだアーツスクエア検討会での検討結果として、千代田区ならではの文化芸術の発展に向けた「ちよだアーツスクエア構想」をまとめ、千代田区あてに提言する。

ちよだアーツスクエア検討会

平成18年10月 4日

提言に当たって

千代田区は政治経済機能が集中した街である一方で、新旧さまざまな文化財の宝庫でもあり、それらに出会える博物館、美術館、劇場、コンサートホールなどの施設をすぐ身近に見出せる文化芸術の街でもあります。「ちよだアートスクエア検討会」は、このうちの後者の特質を活かして区民の文化芸術活動を支援しようとする「アートスクエア構想」の検討という使命を帯びて立ち上げられました。

検討会では当初の漠としたイメージが次第に具象化され、メンバーの豊かな経験に根ざした創造的な発想が次々と提示されるようになって、自由・闊達な議論が展開されました。「ちよだアートスクエア構想の提言」はその成果として纏められたものであり、地域を愛し文化芸術に造詣の深い検討会委員各位の熱いご協力の賜物にほかなりません。検討会委員各位に深く感謝申し上げる次第です。

今後、本提言をもとにハードおよびソフトの両面から整備を進められ、区民および昼間区民に広く受け入れられ愛されるような、さらには区民の誇りとなるような「ちよだアートスクエア」を実現されるよう期待しております。そして究極的には「ちよだアートスクエア」がその活動や情報を通じて、区の境界を超えた地域の人々をも千代田区に惹きつけるものへと発展するよう祈念いたしております。

ちよだアートスクエア検討会座長
西野 万里

ちよだアートスクエア検討会 委員名簿

(敬称略／50音順)

	氏 名	現 職
1	稲 岡 稔	株式会社 イトーヨーカ堂 取締役
2	門田 けい子	産業人文学研究所 代表理事
3	木 元 尚 男(副座長)	文化芸術協会理事長(区民) (元千代田区文化芸術振興施策に関する懇談会委員)
4	白 井 衛	ぴあ株式会社 取締役 営業開発部長
5	寺 脇 研	前文化庁文化部長 (元千代田区文化芸術振興施策に関する懇談会委員)
6	中 川 典 子	青少年委員会会長(区民) (元千代田区文化芸術振興施策に関する懇談会委員)
7	西 野 万 里(座長)	明治大学商学部教授 (現千代田区政策会議委員)
8	林 勇	江戸天下祭運営委員会会長(区民) (現富士見地区町会連合会会長)
9	原 一 平	日本大学芸術学部教授
10	服 部 浩 美	千代田区専修学校各種学校協会会長
11	藤 原 房 子	ジャーナリスト(区民) (現千代田区政策会議委員・元千代田区文化芸術振興 施策に関する懇談会委員)

ちよだアーツスクエア構想の提言

ちよだアーツスクエア検討会

1. アーツスクエアの目的

「生活の質を高める」

文化芸術は、人々の生活の質を高めるための重要な役割を果たす。千代田区は、文化的・歴史的に貴重な財産を多く持つことから、それらに関する情報を発信すると共に、有効に活用し、これにより、人々の様々な自己表現の場や交流の機会を提供する。その結果、人々の生活の質を高める役割を果たすことがアーツスクエアの目的である。

2. アーツスクエアの対象となる区民

「アーツスクエア区民」

アーツスクエアの対象は、千代田区に、在住・在勤・在学する人々及び観光客(外国人を含む)など、千代田区とかかわるすべての人々とする。

3. アーツスクエアに盛り込む主な活動

□ 歴史・文化を継承する活動

- ① 無形文化財等の継承：国指定による重要無形文化財保持者（人間国宝）や重要無形文化財保持団体等の協力を得た活動を展開する。
- ② 江戸文化の継承：江戸時代から続く歴史文化・伝統文化を学習し、継承し、発信する活動を行う。
- ③ その他の文化の継承：出版や印刷、製本技術等の文化を継承する活動を推進する。

□ 新しい文化を創造する活動

- ① アーツスクエア区民の文化芸術活動を支援
日常的な活動から一歩進んだ質の高い活動へと発展させる。
- ② 新たな文化の創造
新たな文化を千代田から生み出し発信する。
- ③ 人々の交流の輪の拡大
文化芸術をコミュニケーションの手段として、発表や制作を行い交流を深める。
- ④ 文化芸術活動の活性化
活動を発展させるインセンティブ（誘引）として、コンクールや展覧会などの評価の場を提供する。

4. 想定される活動支援策

項 目	内 容	支援策の例
1.活動・交流の場の提供	○アーツスクエア区民の日常の活動や交流の場を提供する。	・練習場や稽古場の提供 ・ものづくりの場の提供
2.発表と評価の機会の提供	○活動の成果の発表と評価の機会を設け、活動意欲を高め、質の高い活動を支援する。	・コンクールの開催 ・文化芸術祭の開催
3.情報の収集と提供	○専門家に関する情報収集と提供を行う。 ○遺跡や文化財などの文字データ・画像データ等をデータベース化（デジタルアーカイブ ¹ ）し、利用可能な情報として活用できる体制を整備する。 ○伝統芸能・伝統技術・歴史的資料等についての専門性の高い相談に対応できる機能を充実する。	・伝統芸能や伝統技術を持つ専門家の情報提供 ・歴史的建造物・遺跡・文化財の情報提供 ・著名作家のイベント紹介 ・活動の場の情報提供（公共施設等） ・相談コーナーの設置（専門的相談にも対応できるもの）
4.人・情報のコーディネート	○企業、大学等に対し、文化芸術事業への理解を求め、協働活動を促進する。 ○地域の活性化に向けた支援を行う。 ○文化芸術ボランティアの育成を図るとともに、後継者育成も視野に入れた、指導者育成を推進する。	・企業との共催事業の実施 ・地域イベントの連携支援 ・共同実施など ・ボランティア・後継者育成支援 ・古典芸能・文化体験教室等文化に触れる機会の提供 ・地域に密着した仕事場の提供（ボランティア活動を含む）

¹ デジタルアーカイブとは、歴史的・文化的資産や様々な分野の情報をデジタル映像やデジタル文章として保存・蓄積すること。インターネットなどを通じ、情報提供・閲覧することができる。

5. 文化芸術拠点の必要性

「ソフトとハードの両面から文化芸術活動の拠点づくりが必要」

【ハード面】

□ 拠点の設置

活動の拠点として常時使用できる、千代田区を象徴する施設を1箇所設け、その中に、情報発信の拠点としての機能も持たせる。

□ 既存施設の活用

既存区有施設を活用する。その他に、利用可能な公私立の小・中学校・高校や大学・専門学校をはじめ、企業のオープンスペース等の施設及び専門家の稽古場などを広く活用し、アートスクエア区民の活動の場を広げる。

【ソフト面】

□ アートスクエアの活動対象

活動はアートスクエアの目的に適合する分野を対象とする。

□ アートスクエア運営組織の設置

アートスクエアで実施する活動を、円滑かつ機能的に運営するために、専門のコーディネーターや地域住民等で構成する運営委員会を設置する。

6. アートスクエアの拠点設置場所

現状において、アートスクエアの拠点については、当面、区の活用策の決まっていない区有財産を、周辺地域の合意のもとに、地域に貢献する形で有効活用をすべきである。

また、財政的な側面からも、新たな施設を整備するより既存施設を活用する方が費用対効果において優れている。

現在、千代田区には旧学校施設が活用可能施設として存在し、アートスクエアの性格上も適していると考えられる。しかし、旧学校施設については、「区有財産活用懇談会」において、将来の恒久的活用方策について提言がなされている。

当「アートスクエア検討会」としては、旧学校施設である旧永田町小学校、旧今川中学校、旧練成中学校の3箇所について、下表のとおり優劣順位をつけたところであるが、当面の設置場所として旧練成中学校を活用することが望ましいと判断した。

候補施設に関するアートスクエアとしての適性の判定－優劣順位

アートスクエア としての必要条件	展開する内容 (検討委員の意見をまとめたもの)	旧 練 成 中	旧 今 川 中	旧 永 田 町 小
○教室形式の個室・ 空間 (一定の数の教室)	◎地域の文化や産業の創造活動の場 ◎千代田区の伝統を守り、伝え、育てる場 ◎自分の得意な分野を発揮しモノを創る場 ◎同好者が集い、刺激し合い、楽しみを分かち合う場	1	3	2
○講堂・ホール・体育 館・図書館・多目的 ホール	◎江戸しぐさのような、日本人に受け継がれてきた習慣等を広める場 ◎芸能分野の「コンクール」の場 ◎大使館などを取り込んだ国際的な活動の場 ◎千代田区の出版文化を図書館方式等で伝える場	1	3	2
○ 交通アクセス		1	2	1

1 が最も優れている。

ちよだアーツスクエアへの期待

稲岡 稔

ちよだ、あるいは千代田区の地域は、過去400年間わが国の政治、行政、司法の要となる機関が置かれ、明治以降は多くの大企業が本社を置いてきた。

当然、それらにかかわってきた人たちがこの地に住み、あるいは仕事をして、それぞれの歴史をつくってきた。

近世、近代日本史の現場の多くがちよだであったし、日々日本の現代史がちよだでつくられている。

これを政治、行政、司法、経済といった視座ではなく、人々が生きた場として考えるなら、わが国の他の地域には例のない、狭いけれども特異で、濃密な文化圏である。

さまざまな文化が残され、さまざまな芸術が生まれ、また愛され、楽しまれた。

これらはわが国の、また世界のかげがえのない遺産である。

今回「ちよだアーツスクエア」の構想が固まったことは、この提言にあるように「文化的・歴史的に貴重な財産を多く持つことから、それらを有効に活用する」と同時に、未来へ向けて「人々の生活の質を高める役割」を果たす場をつくることとして、極めて意義深いことであり、大きな期待をもっている。

「ちよだアーツスクエア」という拠点をつくる、と決まったことこそがまさに画期的で、既に大きな成果であると考えている。

提言でも歴史、文化を継承し、新しい文化を創造する活動として、さまざまな切り口からの企画、事業、あるいはイベントが考えられている。担い手にも不足はないのであって、区内外のさまざまな場、大学、企業などの知の場と交流しあえば、さらに大きな波となって広がることであろう。

区内で働く者のひとりとして、何とも心躍る、楽しみな構想である。

400年のちよだの歴史、そして未来へ向かっての感動と優しさの場―楽しみであり、オープンが待たれることである。

(株式会社 イトーヨーカ堂 取締役)

私のイメージするちよだアーツスクエア

門 田 け い 子

平成17年9月から始めました「ちよだアーツスクエア検討会」に参加させていただきました門田けい子です。「文化」という広い間口から入る千代田の文化活動拠点イメージづくりは、たいへん難しく感じましたが、昨年12月、旧池尻中学校「ものづくり学校」を訪問見学することで、おぼろげながら休廃校利用による活動をイメージすることができました。

私のイメージする「ちよだアーツスクエア」は、3つの要素を合わせ持つ文化活動のショーケースと位置付けました。

第1は、国際的な活動の場であること。各国の大使館は自国の文化情報を大使館の外へ効果的に発信することに苦慮しています。また、自国のアーティストの制作場所を東京で探し求めています。そこで、教室の一部を在京の大使館に貸し出し、その国の文化広報センター機能とその国の滞在アーティストのスタジオとして利用してもらう。

第2は、地域の産業や文化の創造活動の場であること。神田の古本屋街、出版、製本関連の企業と連動する印刷文化継承拠点として、古書や活版印刷機の保存と活用によるアートブック制作工房、また、秋葉原は国内外の専門性が高い人々が集まる街であることから、製作工房もショーケースに包含する。

第3は、千代田区のコミュニティ・コアの役割を担う情報発信拠点であること。そのためには人を集め、交流できるギャラリー空間と、効果的な広報活動のためのインターネット放送局の開設が重要である。各国大使館の文化情報、アーツスクエア活動情報、区域内の史跡、文化人活動情報をバイリンガルで発信し、区域内外の人々に活動を周知させながらコミュニティ・ネットワークの強化も図る。

国際都市として安全な街づくりはグローバル化の時代の新たな課題です。「ちよだアーツスクエア」は、国際的な相互理解の役割を果たしながら、普段の地域情報の効果的な発信と共有化は安全な街づくりも期待できると考えます。

(産業人文学研究所 代表理事)

アーツスクエアが目指すもの

木元 尚 男

日本は、単なる物作り産業の国から、知的財産を生み出す国へと国家戦略を大きく方向転換している。

2002年2月4日、小泉首相は施政方針演説の中で「わが国は、既に、特許権など世界有数の知的財産を有しています。研究活動や創造活動の成果を、知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化することを国家の目標とします。」と宣言、内閣総理大臣を本部長とする「知的財産戦略本部」を発足させた。このプロジェクトの陰の推進役は安倍さんであったと聞いている。とすれば、この国家戦略は安倍内閣において更に前進されると期待したい。

知的財産を生み出す原動力は、考察する心を伴う文化的、芸術的感性である。それが文化的知的財産をも創出し、科学技術発展の芽を育てる源泉ともなるのではないだろうか。

アーツスクエア構想は、まさに日本の国家戦略にも合致し、これからの日本が大きく羽ばたく拠点構想として、その重要性が問われるものとなっていくものと思う。

しかし、理念は高く掲げるとしても、我々の作業は、石を一つ一つ積み上げていくような地道な活動である。

文化のコアの部分は、いかに生きるかを実現しようとする「人々の生活」の中にある。今、その生活の中で、精神の豊かさ、やさしさを表現する「江戸しぐさ」が話題になっている。このような、かつての日常生活から生まれ、今に生きる我々の日常生活を支える視点からの主題「江戸しぐさ」を、アーツスクエア事業企画の主体として絞り込み、今後の検討対象としては如何かと考えている。

具体的な事例

1. 文化体験学習会

「江戸しぐさ」「伝統礼法」「近代礼法」「茶の湯」「冠婚葬祭」「食文化」「節句」等々、日本人の心に復活させ、日常の中で活かしていきたい。

例えば江戸文化の研究家、専門家を招き、またその研鑽の場に伺い、知識を深め、その知識を共有することのできる学習フォーラムを開催する。

2. 江戸文化セミナー

江戸、千代田区に関するものに限定した企画。例えば、栄養学的にも感服するほどの「江戸料理の知恵」。また大量消費型生活から再利用型生活へ回帰するための、「江戸庶民の知恵」を学習する企画など。

アーツスクエアは、そのような情報を発信する場でありたいと願うものである。

(文化芸術協会理事長)

「ちよだアーツスクエア」によせて

白井 衛

私は、千代田区の在住者ではないが、学生時代から千代田区にある学校に通い、就職も千代田区に本社を構える会社に勤務し、通算30年以上、在学・在勤者として過ごしてきた。自分の人生で過ごした時間は、千代田区内で過ごした時間が圧倒的に多く、私自身、立派な千代田区民だと自負している。また職業柄、千代田区内には、多くの取引先が存在し、多くの施設、飲食店や書店を利用し、休日には書店街で古書を探したり、絶版になり、レンタルビデオ店にもないお宝映像を発見したり、また季節のいいときには花見を始め、皇居の散策など千代田区を十分に謳歌している。

また千代田区ほど、千代田区ならではの多い区もない。皇居をはじめ、日本最大の電気の街「秋葉原」、行政の中心「霞ヶ関」、政治の中心「永田町」、そして「東京駅」など枚挙にいとまがない。そこで、アーツスクエアの精神でもうひとつ、千代田区ならではのものを提案したいと思う。ご存知の通り、千代田区には多くの出版社、製本屋、紙屋、書店がその居を構えている。使わなくなった学校を利用して、「雑誌専門の図書館」を創ってみてはどうだろうか。日本ほど多くの雑誌が発行されている国もない。また、雑誌ほど時代の世相や風俗を表現して、気軽に触れる媒体もない。TVやラジオだと、見たい、聴きたいと思う番組が簡単には検索できない。雑誌ならば、うまくジャンル別に整理して、教室に並べるだけでいい。決してきれいに飾ったりせずに、誰でも自由に触れて、自由に読んでもらえる、雑誌とはそんなメディアだ。デジタルアーカイブもいいが、デジタル化するのに無用な費用がかかりすぎる。老若男女を問わず、ふらっと立ち寄れて、昔を懐かしんだり調べ物をしたり、コーヒーを飲みながらでもいい、自由な雰囲気の中で雑誌に触れることのできる雑誌専門の図書館。読み終わった雑誌は捨てないで是非、この図書館に寄贈してもらおう。時間はかかるが、過去の雑誌まで含めて、日本最大の雑誌の種類と蔵書を誇り、気軽に雑誌に触れられる専門図書館。アーツスクエアの象徴にはならないだろうか。

(ぴあ株式会社 取締役 営業開発部長)

ちよだアーツスクエア（仮称）に期待する

寺 脇 研

徳川幕府による江戸開府以来、400年以上にわたって千代田区は日本の中心であり続けています。政治や文化・物流・情報等の拠点であるこの地区には、長年にわたって様々な人々が集まり活動を繰り広げてきました。それらは麹町、猿樂町といった数多くの特色ある地名から分かるように、幅広い分野に及んでいますし、多様な施設が今日まで整備され続けています。

このような多くの貴重な文化的・歴史的資源をもつ千代田区が、それらを有効に活用した街づくりを進めることを目指し、今般、ちよだアーツスクエア構想として纏められたことは大変意義あることと考えます。

文化庁では、「地域文化で日本を元気にしよう!」という方針のもと、各地域における様々な文化芸術活動の振興・支援に努めており、その一環として関西地区の2府7県3政令市や経済団体、各種団等とともに「関西元気文化圏」を進めています。また、文科省が現在、丸の内地区に移転していることを契機に、同地区の企業等と「丸の内元気文化プロジェクト」も実施しているところです。いずれにおいても「文化」をキーワードとした多彩な活動が年間を通じて実施され、多くの方々の参加を得ています。

このように、既に千代田区では先進的な取り組みが行われています。その中にあって、新たな構想を立ち上げられたことは地域の更なる魅力の増進に官民一体となって努めていこう、という姿勢の現れであり、地域の更なる「文化力」向上に向けた取り組みとして大きな期待を寄せています。

是非、行政側では多様な提言が盛り込まれた本構想の実現に向け、真摯な取り組みを行われることを願っています。文化庁としても、本構想を全国に周知することを始め、その支援に努めて参る所存です。

千代田区の益々の発展を心からお祈りします。

（前文化庁文化部長）

「千代田の文化を千代田ブランドとして発信する場をつくる」

中川典子

鳥取県の倉吉市に白壁土蔵群という観光スポットがある。江戸・明治時代になって建てられた白壁の土蔵群は当時の産業の中心だった。その面影は今に残っており、建物を生かして、造り酒屋、工芸館、一般開放の町家などとして、歴史とともに培われてきた文化・芸術を伝えている。その土蔵群を中心に、昔の長屋を感じさせる区割りをした建物があり、はこた人形、竹細工、下駄などの特産品の実演販売や体験コーナーを備えた店、醤油醸造場、酒屋、喫茶店、蕎麦どころなどが集まっている。店においてある品々は、観光地土産にありがちな安っぽいものではなく、地元で育った確かな伝統工芸品である。そこへ行けば倉吉の文化が凝縮しており、希望すれば製作体験もできるし、地元ならではの食事もできるのが魅力だ。駐車場も完備しているから、ゆったりと散策できる。そこは、伝統を守る・伝える・育てるがそろった場所だと印象に残っていた。

昨年、アーツスクエア検討会のメンバーに加えていただいて委員の皆様と意見交換したり、廃校になった学校を利用して世田谷区が作った「世田谷ものづくり学校」を見学したりした。「世田谷ものづくり学校」は学校跡地を創業支援の場として、若い人たちが企業に、広さに応じた安い家賃で貸し出し、創作活動を支援している。

そんな中で私は、千代田区のどこかに、倉吉の白壁土蔵群と「世田谷ものづくり学校」をミックスしたような場所ができないだろうかと考え始めた。千代田区の伝統を一堂に集め、伝統を守り・伝え・育てるというアーツスクエアの基本構想にあう場所にするのである。

場所はどこがいいだろう？ 東京見学のコースの中に必ず入っている国会議事堂の近く、永田町小学校跡地だったら国会見学と合わせてコースに組み入れてもらえる。

——などと考えていたら、検討会メンバーの一人、門田けい子さんが、震災後の神戸の小学校跡地に神戸の地場産業を集めた建物ができていて、学校跡地だから敷地が広く、観光バスがいくらかでも入るので、活況を呈しているというお話をしていた。神戸に伝わってきたチョコレートや焼き菓子の店、コーヒー豆輸入店、パン屋、中華料理店、靴屋などが、販売だけではなくものづくりの楽しさを教えてくれる店として、体験メニューも用意している。所在地の北野地区と、旧外国人居留地とを結んで走るトアロードは“神戸のハイカラ文化”発祥の地であり、震災復興の中でその文化を守っていると伺った。

神戸の例をヒントに、千代田区に育ってきた蕎麦や和洋菓子店、染物屋、紳士服の仕立屋、印毛屋、などの店にワークショップ的に入ってもらうことに加え、伝統芸能の舞台を作って練習や公演をしたり、小学生がジャズバンドの練習をしたりするなど

など、千代田区で力を入れたい文化コンテンツをそこに集める。それとともに、文化施設の情報、催しの最新情報などが、冊子やパソコンでの検索ですぐに取り出せる場所にする。そんなことはできないだろうか。

道府県からのアンテナショップが東京目指して集まっている。逆転の発想で、千代田区の文化のすべてはそこへ行けばわかる、という場所にするのである。

千代田区民の中でさえ情報不足で、どんな文化財があるか知らない方も多いと思う。うすもれさせないためにも、全国の人に見てもらうことで励みになり、千代田区の活性化につながるのではないだろうか。

アーツスクエアといっても、楽しくなければ、魅力的でなければ、人は集まらない。

(青少年委員会会長)

千代田アーツスクエア構想について

西 野 万 里

私たちは人類の進歩の結果もたらされた最先端の粋を集めた都市で豊富な消費財や便利な家庭電化製品に囲まれて生活している。一見すると豊かで満ち足りた生活である。しかし、本当にそうであろうか。不便な地で、食べていくのが精一杯の貧しい生活に追われている人々と比べて、本当に豊かな生活を楽しんでいると胸を張って言えるのであろうか。

否である。都会での便利な生活と引き換えに、私たちは澄んだ大気、静けさ、美しい星空、小鳥の囀りなど多くのものを失い、その結果、生活の質が知らず知らずのうちに侵食されていると言わざるを得ないからである。

これらの失われたものを取り戻すことは難しい。しかし自然環境に劣らず私たちの心を豊かにさせ生活の質を高めてくれるものに文化、芸術があると考え。幸い千代田区内で人々は容易に文化遺産や芸術活動に触れることができる。有形・無形の文化財、美術館やコンサートホールもそこかしこに存在するうえ、住民に加えて昼間人口に属する勤労者や学生などのなかに文化・芸術活動に造詣の深い人々も多いはずである。

そこで「昼間区民たる勤労者や学生」を取り込んで、「本来の千代田区住民」に加え、その全体を「千代田アーツスクエア区民(以下千代田A S区民と呼ぶ)」と定義して、両者を対象とする「アーツスクエア」活動の展開を提案したいと考える。活動の目的は、通常のハード面からの生活環境の整備に加えて、ソフト面からの生活環境の質の向上に寄与するために、千代田A S区民が文化・芸術活動に一層、容易に親しむ環境を整備し、支援することである。

昼休みやアフター5などに、公園・空き地、大学や企業のオープンスペースなどでの小コンサートや演劇上演、屋内会場での絵画教室や展示会などの催しの支援、そしてこれらのうち評価の高い活動を選び、年に一定期間にフェスティバルでアンコールし、優れた活動を表彰することも考えられる。さらに既存のコンサートホールや美術館での活動やアクセスに関する情報提供や、これらの施設と提携したA S区民のためのイベントの計画等も考えられる。

(明治大学商学部教授)

千代田ならではの文化芸術の拠点を

林 勇

私は、平成15年に「千代田区文化芸術振興施策に関する懇談会」に委員として出席し、江戸開府400年記念事業を中心に、千代田区の文化芸術についての意見を述べさせていただいた。

その際に、千代田区は、山王祭や神田祭を中心に、地域が大いに活性化していた時代背景があること。また、「江戸しぐさ」という、江戸時代の精神性を反映した、粋で品格のある成熟した文化を持ち人々が暮らし続けていたという、すばらしい財産があることを強調したことを覚えている。その意味で、アーツスクエア検討会に参加し、千代田区の魅力を改めて見直すきっかけにさせていただきたいと考えている。

検討会の当初は、アーツスクエアの設置場所や規模が示されない中で意見を求められ、私なりに困惑したことを覚えている。しかし、千代田区が江戸時代から受け継いできた様々な文化を、今日の文化と合わせて発展させるということの重要性を、改めて認識し、千代田区の未来を考える最適な時期にきていると思えるようになった。

その源を、現在に受け継ぐ意味で「アーツスクエア検討会」の様々な分野で構成される委員のもとで、方向性を示し、基本構想として位置付けることは、千代田区の観光施策を考える上でも大変重要な「指針」になると考える。

私も、伝統産業に携わっている関係から、伝統芸術・文化の継承という視点を含め、意見を申し上げた。アーツスクエア検討会の構想により、千代田区にかかわる全ての区民を中心に「千代田の心意気」が広がり、地域に良い意味での刺激を与えることを大いに期待したい。

(江戸天下祭運営委員会会長)

《ちよだASアワード》の創設を

原 一 平

実現性という「ものさし」を、いったん脇へ置いて、私は次のような「夢」を見ています。

AS区民(在住者・在勤者・在学者)が、アートの広大な世界を「識る」「考える」「(暮らしに)取り込む」場として、アートスクエアを活用する。このことをスクエアの第一ステップと位置付けるなら、第二ステップはスクエアを「創る」場として活用すること、これ以外には考えられません。

検討会では、「創る」場としての機能について、発表機会の設定、学校施設の利用などが提案されましたが、私はこれをさらに押し進めて、仮称《ちよだASアワード》、すなわち芸術各分野の「コンクール」の創設を提案したい。

芸術の世界においても、「第三者評価」の導入は「質の向上」のもっとも有効な手段です。観客・鑑賞者・読者という名の「第三者」の評価を得ることにより、作品は初めて自己満足の世界から脱皮できるからです。

「創る」行為は多種多様です。何を創るかによりコンクールを想定すれば、次のようになるでしょう。

空間を創る → ちよだ美術賞 ちよだデザインコンペティション
映像を創る → ちよだ映画祭 ちよだ写真(ビデオ)コンクール
文章を創る → ちよだ文学(文芸)賞
音で創る → ちよだ音楽祭
身体で創る → ちよだ演劇祭 ちよだ舞踊コンクール

私の「夢」は、仮称《ちよだ総合文化祭》の名のもとに、これら全てを一斉開催することですが、前期「第一ステップ」が定着してきた分野から実施、という考えの方が現実的でしょう。

また、実施にあたっては、

1. 作品募集の対象をAS区民に限るか、否か？
2. 作品の内容を千代田区に因んだものとするか、否か？
3. 審査を専門家に委ねるか、AS区民の投票によるか？

といった課題の検討が必要となりますが、こうした課題を真剣に議論すること自体、すでに有益な文化活動であることを自覚したいものです。

(日本大学芸術学部教授)

「自分の得意」を「発信」しよう！

服部 浩美

「^{マチ}町」から「^{マチ}街」が消えた

新しい街づくりというと、だいたい一律的になり、いままで重層的に存在していたその地域の固有の記憶がことごとく喪失されていく例が多い。歴史という時間を越えて重なってきた、異なる文化が混ざりあった不思議な空間がなくなる。人の営みがどんどんビルの中や部屋の中に囲い込まれていき、街から喧騒やニオイがなくなる。人は自分の中に閉じこもって外の世界を見なくなる。あるいは一方通行で外の景色を見るだけになる。生活の場である街の活気ある風景が無くなり、実感が持たなくなってきた空間がどんどん増えている。市場(いちば)のような双方向での人々の賑わいが無くなり、コンビニやショッピングモールのような無機的な機能としてのマーケットが増え、わたしたちの生活が消費する側に追いやられバーチャル化してきている。これが現代のさまざまな問題を引き起こしている。これでは生き生きとした関係性や場を生み出すことは難しい。本来街はそこに生活する人々がかかわり、遊びや仕事を通して生活の知恵を提供しあって成長し学ぶ場であった。ヒトやモノや生きた情報が行き来する文化生成の現場そのものだった。

「消費」から「生産」へ、その拠点としてのアーツクエアへ

アーツクエアがめざす方向は、関係を再構築することのできない「消費者」側に力点が置かれているわたしたちの生活を、関係構築可能な「生産者」側に力点を置く生活にシフトチェンジしていくことにあるのではないだろうか。

自分の得意を発揮しモノを造り、その過程を共に楽しみ、成果を売っていく、そこに人々のコミュニケーションとコミットメントがある。そういう社会の拠点を街中に創っていかうとする行為だ。たとえば釣りが好きで得意な人が釣り竿の作り方を教え、釣りの極意を知っている人は情報を共有し研究し、料理好きの人は魚の捌き方のコツや、素材を生かした調理法や食べ方を披露し食卓を囲んでともに楽しむとか、それぞれの知恵や素材や場を提供した人には講師料や材料費が支払われる。また千代田区は出版と印刷業、古本街や電気街、スポーツ店や楽器店、学校、美術館、図書館などの教育文化施設、挙げればきりが無いほど多様で深い潜在的文化を持っており、それぞれが連携し、個人の得意を社会化し他人に認めさせていくアイデアはいくらでもある。個人であれ、グループであれ、団体であれ、それらを生産に結びつけて顕在化し、街に繰り出していく、そういう行為をひとつずつ実現していくことが、街を復権していくことにつながるのではないか。アーツクエアは人々の多様な表現を生産する拠点になるだろう。

(千代田区専修学校各種学校協会会長)

「文化という名の財産」を地域に

藤原 房子

経済の起伏があったにせよ、曲がりなりにも平和が続いたこの60年、働き過ぎと批判された日本人も、各種の統計が示すようにその後半期にはレジャー時代とはやされて、貴重な余暇時間を手に入れた。大小を問わず自分の好きなことを楽しむ余裕が持てるようになった。今や現役世代はワーク・ライフ・バランスの時代、シニア層は素養豊かだ。

自由時間に取り組む趣味や遊びは個人によってまちまちだし、熱の入れ方もスケールも到達レベルも違いは大きいだろうが、ひそかに「私有」されている「文化という名の財産」は、想像以上に多彩で豊かなものになっていると私は想像する。

それらを個人的な仲間うちや狭い範囲で共有するだけではなく、もっと広い場所で、地域の風に吹かれながら、同好の他者と出会い、お互いに刺激し合って関心を深め、楽しみを分かち合い、興味をさらに高めることができれば、どんなに素晴らしいだろう。そんな期待と構想を含めた場づくりが今回、行政の支援でできるとは実にうれしい。お客さまとして見物するだけではなく、主体として創り、演じる立場にもなれる。

千代田区内には住む人だけではなく、在勤・在学で国の内外から集まった個性的な人材が出会い、常に密度高く交流している。主人公をあえて「スクエア区民」と名付けたのはそんな人々の積極的な参加と役割をも期待しているからだ。

成功する条件はもろもろ整っているが、何といても白紙の状態から始まる先駆的な試みであり、モデルの少ない事業だから、参画する人々の知恵と汗とエネルギーを集めて、新しい方向を模索し、大胆に創造していく必要がある。難しいかもしれないが面白そうだし、やりがいもある。

本懇談会が示した骨組みに肉付けをしていただけたような「スクエア区民」の面々が、手ぐすねひいて待ち構えておられるような気がしてわくわくする。とにかく言葉だけであった文化行政が、こうして地域に根づき、さらに輪を広げたら素晴らしい。

(ジャーナリスト)

ちよだアーツスクエア検討会 会議開催経過（平成17年9月～18年9月）

平成17年9月6日（火）

午後4時～ 第1回検討会開催（九段社会教育会館5階 多目的室）
（内容・議題） 委嘱状交付、委員紹介
座長、副座長選出
意見交換

平成17年9月30日（金）

午後3時半～ 第2回検討会開催（九段社会教育会館5階 音楽視聴覚室）
（内容・議題） 新たな文化芸術の拠点のあり方について
具体的な文化芸術事業について

平成17年11月11日（金）

午後6時～ 第3回検討会開催（九段社会教育会館5階 多目的室）
（内容・議題） 今後の進め方について
施設に向けての各位委員の意見について
中間のまとめについて

平成17年12月3日（土）

午後3時半～ 第4回検討会開催（世田谷ものづくり学校 世田谷区池尻2-4-5）
（内容・議題） 世田谷ものづくり学校 施設見学

平成18年1月20日（金）

午後4時～ 第5回検討会開催（九段社会教育会館5階 多目的室）
（内容・議題） 中間のまとめについて
ちよだアーツスクエア提言に向けて

平成18年2月28日（火）

午後4時半～ 第6回検討会開催（九段社会教育会館4階 第1集会室）
（内容・議題） ちよだアーツスクエア提言について

平成18年3月22日（水）

午後3時～ 第7回検討会開催（九段社会教育会館3階 第1学習室）
（内容・議題） ちよだアーツスクエア提言の今後の扱いについて
任期の延長について、今後の会議の進め方について

平成18年7月5日（水）

午後4時半～ 第8回検討会開催（旧練成中学校）
（内容・議題） 旧練成中学校の施設見学

平成18年9月20日（水）

午後4時半～ 第9回検討会開催（九段社会教育会館3階 第1学習室）
（内容・議題） ちよだアーツスクエア提言について

アートスクエア検討会のこれまでの検討経過（骨子）

第1回検討会（平成17年9月6日(火)：九段社会教育会館）

○アートスクエアとは

地域が活発で、魅力と力があふれるよう、区民がつくり活動できる「場」というイメージがアートスクエアである。部分的にはプロが入るが、そこにあるのはまちの人であり、次代を担う人を育てる場でもある。

第2回検討会（平成17年9月30日（金）：九段社会教育会館）

情報発信基地としてのアートスクエア

地元の力で地域の文化情報を集め、発信すべきだ。相談（情報発信）できる場としての、情報センターは必要である。

○活動の拠点について

拠点は、新たな施設をつくるのではなく、廃校施設など既存の施設を活用すべきだ。区内の資産をあきらかにして、長い目で準備と計画をきちんと立てるべきだ。

第3回検討会（平成17年11月11日（金）：九段社会教育会館）

○千代田ならではのアートスクエアを

他の自治体にはない、千代田区ならではのものをアートスクエアに盛り込み、千代田区、東京ではじめてのものを作るべきだ。

- ①雑誌図書館や神田の歴史の印刷屋、紙屋、装丁を象徴するもの。
- ②現代のアート建築についてものデータセンター。
- ③伝統工芸に携わる人が常駐し見学・体験できる場所。
- ④千代田の生活文化を取り込める場所（暮らしの中のアート空間）。
- ⑤若手演奏家の登竜門となる、民間にはない小ホール。
- ⑥演劇等の上演系の発表の場。
- ⑦演劇・映画の情報を収集・相談機能を備えた場所。
- ⑧デジタルアーカイブ関連で民間ではできないようなもの。
- ⑨コーディネートする機能をもつこと（オーケストラの指揮者の役割）。
- ⑩学校活用は、小さな教室をツアーして歩く楽しさがある。
- ⑪継続的にやるには、プロデューサー的な役割が重要。

第4回検討会（平成17年12月3日（土）世田谷ものづくり学校視察）

○「世田谷ものづくり学校」概要

- ①所在地 東京都世田谷区池尻2-4-5
- ②事業主体 イデアールプロジェクト（株）
5年間の定期借家による事業、土地・建物の所有は世田谷区
- ③事業内容 都内初の民間事業者による廃校活用であり、児童生徒数減少に伴う小中学校の再編統合とその跡地利用を模索する世田谷区と、デザインによる都市再生をめざす民間企業のコラボレーションより、統合閉校した中学校校舎を定期借家してのギャラリー、セミナールーム、オフィスに生まれ変わった。
- ④事業規模 校舎3, 343㎡ RC造3階建て
- ⑤事業期間 2004年10月1日オープン（当初契約5ヵ年）
- ⑥施設内容 1階：ギャラリー、試写室、工房、カフェ
2階：建築・家具などに携わるクリエイター用スモールオフィス、ワーキングスペース
3階：映画・映像関係、Webなどのメディアに携わるクリエイター用のスモールオフィス、ワーキングスペース

※世田谷ものづくり学校（IKEJIRI INSTITUTE OF DESIGN）ホームページ：

<http://www.r-school.net>

第5回検討会（平成18年1月20日（金）：九段社会教育会館）

○アーツスクエアとしての基本的な考え方

- ①アーツスクエアの対象は、在住区民・在勤・観光客等広く含まれるためここでは「アーツスクエア区民」という言葉を使う。
- ②既存施設には、公共施設、大学・専門学校等、企業のオープンスペースがある。さらに地域の専門家施設を入れて3つに分類する。
- ③活動の場でもあり情報発信の場でもあり、常時使用でき、かつ、文化芸術に関する情報を発信する機能も併せ持つ。
- ④ハードの拠点としてのアドバイザリースタッフ、全体のマネージメント、調整機能としてのアーツスクエア運営組織の設置が必要である。

第6回検討会（平成18年2月28日（火）：九段社会教育会館）

○アーツスクエアの目的

- ①自己表現の場や人々の交流の機会を設け、「生活の質を高める」という役割を担う。
- ②区が持つ文化的・歴史的に貴重な財産の情報を有効に活用する。
- ③江戸時代以降の、歴史文化・伝統文化の良さを見直す必要がある。
- ④千代田区の、特性である産業文化を活かした文化の継承活動を推進する。
- ⑤新たな文化を地域から生み出し、区民の交流の輪を広げ深めることを支援する。
- ⑥コンクールや展覧会など評価の場を提供する。

第7回検討会（平成18年3月22日（水）：九段社会教育会館）

○提言に向けて

- ①本構想の具体的な実施に向けて、新たな組織を設置し、専門家の意見等を盛り込み進める必要がある。

第8回検討会（平成18年7月5日（水）：旧練成中学校）

○10月の提言に向けて

- ① 本提言において、検討会でアーツスクエアの拠点として最も適していると思われる場所を検討し、評価する。
- ② 候補施設として考えられる区有施設のリストアップを行い、旧練成中学校を検討委員として実際に見学する。
- ③ アーツスクエアの候補地として旧練成中学校の評価は高いが、本施設は、現在一部地域利用を継続しており、地元町会等から要望書も出されていることから、今後地域に理解を求めていくことが必要である。

第9回検討会（平成18年9月20日（水）：九段社会教育会館）

○10月の提言に向けて

- ① 本提言の内容について検討委員の意見を求め、修正及び補足を行い、再確認のうえ、提言としてまとめることで了解を得られた。

ちよだアーツスクエア拠点の設置場所について

○旧練成中学校について

- ・当該敷地は、区の北東部である万世橋地域の北端部に位置しており、区境界を挟んで、西側は文京区、東側は台東区となっており、3区の境界が接する場所である。
- ・アクセス面では、地下鉄銀座線末広町駅から徒歩1分、千代田線湯島駅から徒歩4分であり、利便性は高い。
- ・旧練成中学校は昭和23年に創立され、現校舎は昭和53年に竣工。
- ・平成17年3月に廃校となったが、地域利用は継続して行っており、また、給食施設を利用して、九段中学校の給食をセンター方式で提供している。
- ・南側に隣接する練成公園は、都市計画公園となっており、現在、一部が旧練成中学校のプール用地として残存している。
- ・南側には秋葉原の電気街エリアが近接しているが、計画地周辺では、電気街の雰囲気はあまり感じられない。
- ・東側の中央通りには、中小規模の業務系ビルが多く見られる。
- ・近くの万世橋においても、出張所・区民館の改築を中心とした、地域特性や地域産業の活性化を視野に入れた施設整備が検討されている。
- ・将来的に、商業的開発も考えられなくもないが、その場合、住居系開発が適して」と推察される。

※ 「区有財産の活用について（提言）」 千代田区区有財産活用懇談会

平成17年12月より抜粋

○地元の要望（万世橋地区町会連合会）

なお、本施設は現在、一部地域利用を継続しているが、地元町会より、

- ①民間への売却はしないこと
 - ②有事に活用できる地域の防災拠点として現状のまま活用できるようにすること
 - ③区民の要望に沿った活用を考慮すること
 - ④場合によっては町会等が主体となり自主運営ができるような有効活用方法を検討すること
 - ⑤地域住民と話し合いを充分にすること
- 以上の内容の要望書が区に出されている。

「ちよだアートスクエア」オープンまでのスケジュール（案）

		実施内容	事務局事務（区内部調整、議会報告など）
	18年 6月	○「ちよだアートスクエア検討会」中間のまとめ	○「生涯学習推進委員会」意見聴取 ○「区民生活環境委員会」（区議会）報告
	7月	○「ちよだアートスクエア検討会」（第8回）開催 ・旧練成中学校施設見学	○「文化芸術協会」意見聴取
18年度	9月	○「ちよだアートスクエア検討会」（第9回）開催 ・提言のまとめ	
	10月	○「ちよだアートスクエア検討会」（最終回）開催 → 区長へ提言	○「首脳会議」「幹部連絡会」報告 ○「区民生活環境委員会」（区議会）報告
	12月	○（仮称）「ちよだアートスクエア実施委員会」設置 ：具体的な実施方法を検討していく組織 検討会メンバー（一部留任） 大学・企業・文化芸術施設・町会関係者＋専門アドバイザー （検討内容）～19年12月までの約1年間 ・想定事業の実施方法について ・テナントの募集・決定方法について ・利用者募集要項等の検討 ・近隣住民への情報提供について	○ 予算計上、関係部署との協議・調整 ○「実行委員会」メンバー選定・依頼 アドバイザー選定・依頼（契約）
19年度	19年 12月	○「ちよだアートスクエア実施委員会」検討終了	○「首脳会議」「幹部連絡会」報告 ○「区民生活環境委員会」報告
	20年 1月	○ ハード面の整備準備開始 ～19年度いっぱい	○ 営繕課との協議・調整 ○ 施設整備
20年度	20年 4月	○ 地域（住民）説明会の開催	
	6月	○ 施設の一部での試行的利用開始	○ 実際の使い勝手や騒音対策等の検証 ○ 契約事務
	7月	○ 本格実施に向けての準備	○ テナント等の最終調整
	9月	○ オープンに向けての施設マスコミ公開 ○ 地域住民・区議会への公開	○ パブリシティの実施
	10月	○「ちよだアートスクエア」オープン	

